

佐世保観光名誉大使 小川慶太氏が  
第63回グラミー賞を受賞



本市出身のドラマー・パーカッショニストで佐世保観光名誉大使の小川慶太氏が参加するバンド「スナーキー・パピー」のアルバム「ラブ・アット・ザ・ロイヤル・アルパート・ホール」が、第63回グラミー賞で最優秀コンテンツポラリー・インストゥルメンタル・アルバム賞に選ばれました。小川氏は現在ニューヨークを拠点に活動されており、アメリカの音楽業界で最も権威ある賞を2017年に続き二度も受賞されたことは、佐世保市民にとって大きな誇りです。ふるさと佐世保から小川氏の今後ますますのご活躍をお祈りします。

観光課 ☎ 24-1111

「飛鳥Ⅱ」が県内初となる発着クルーズを  
佐世保港で実施しました



3月31日(水)、国内クルーズ船「飛鳥Ⅱ」が佐世保港で県内初の発着クルーズを行いました。クルーズの入港は昨年10月に「にっぽん丸」が寄港して以来、約5カ月ぶりです。佐世保港を出港後、金沢や舞鶴を巡る5泊6日の行程で、事前のPCR検査や船内各所でのサーモグラフィによる検温などの徹底した感染症対策を講じた上で実施されました。出港時の見送りイベントでは佐世保東翔高校吹奏楽部によるマーチングが行われ、乗客や乗員の皆さんからは大きな拍手が送られました。

みなと振興・管理課 ☎ 22-6127

観光課 ☎ 24-1111

シリーズ 西九州食財 番外編

西九州食財とは？



西九州食財 HP は  
下の画像から



昨年からシリーズで産品の特長やこだわりなどを紹介している「西九州食財」。「西九州食財」とは、「未知の環境、未知の品質、未知のおいしさ」を持ち、次の要件を全てを満たす産品のことを言います。

- 西九州の恵まれた自然環境を生かし、生産された産品であること
- お届けするお客さまに西九州の食財で感動していただけるよう、生産方法やおいしさを追求したこだわりの産品であること
- 本事業を構成する自治体が特に推奨している産品であること(構成自治体：佐世保市、松浦市、川棚町、新上五島町、伊万里市、佐々町、平戸市)

現在、「西九州させば広域都市圏」で取り組んでいる事業の1つ「農水産物等特産品販路拡大事業」で「西九州食財」の情報発信や新市場でのフェア支援、市場バイヤー等を招いた産地ツアーなど、販売額増加に向けた取り組みを行っています。西九州のまだ知られていない産品をこれからも紹介していきますので、どうぞご覧ください。

農業畜産課 ☎ 24-1111

させば市政だより

テレビ NBC 土曜 9:25～9:30、KTN 土曜 11:45～11:50  
NCC 土曜 16:25～16:30、NIB 日曜 6:30～6:35  
ラジオ FM長崎 火曜 9:05～9:10  
FMさせば 金曜 13:00～13:55、土・日曜 10:00～10:55(再放送)、月曜 21:00～21:55(再放送)  
新聞 長崎新聞 毎月第2・4火曜

人の動き(4月1日現在)

- 総人口 240,951人(前月比-1,713人)  
男性 114,131人(-934人)、女性 126,820人(-779人)
- 世帯数 104,492世帯(前月比-250世帯)
- 3月中の動き  
転入 1,951人、転出 3,508人、出生 175人、死亡 331人

市長日記

「新しい価値と新たな未来」を共に築いていきましょう



平成最後の日、平成31年4月30日に佐世保市長に就任し、佐世保市政4期目を担当させていただいてから早いもので満2年が経過し折り返し点を迎えました。

この2年間、特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に追われる日々でした。さまざまな事業やイベントなどを中止や延期にせざるを得ない状況になりましたが、そのような中でも本市が力を入れて取り組んでいるリーディングプロジェクトなどの事業で進展がありましたので紹介します。

世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産「黒島の集落」にある「黒島天主堂」では、耐震・修復工事が完了し、2月24日から教会堂内の見学ができるようになりました。

また、文化財関係では「福井洞窟ミュージアム」が4月28日にオープンしました。約2万年前の旧石器時代から縄文時代まで、同じ場所に古代人が生活していた遺跡が約1万数千年もの間、残されていることは驚くべきことであり、日本の考古学会だけでなく世界的に注目されています。

「倭ヶ浦半島開発」では、「世界で最も美しい湾クラブ」加盟の九十九島の大パノラマが目の前に広がる「九十九島観光公園」が3月28日に一部供用を開始しました。

「名切地区再整備」では、本市初めてのPFI・Park-<sup>ピーエフアイ</sup>パーク PFI(官民連携手法)事業として中央公園のリニューアル

工事が始まりました。来年4月には全天候型の「屋内遊び場」をはじめ、レストランやデイキャンプ場、オートキャンプ場、屋外遊び場、屋外広場などがオープンします。

「クルーズ船入港体制整備」では、国や船社との連携で浦頭地区に岸壁や「佐世保クルーズセンター」などの国際クルーズ拠点整備を行い、三浦地区と併せてポストコロナ時代を見据えてクルーズ船の受け入れ再開に備えています。

「企業立地」では、昨年度立地協定を締結した「新日本無線株式会社(雇用計画23人)」がアルファビルに、パーソルワークスデザイン株式会社(雇用計画450人)が新たに整備された民間オフィスビル「ラクロスビルディング」に開所し、それぞれ事業を開始されました。

教育関係では、児童・生徒全員に一人一台端末環境を整備するなど、「スマート・スクール・SASEBO構想」が動き出しました。また、少年科学館「星きりり」では、最新システムを搭載したプラネタリウムを世界で初めて導入し、3月28日にリニューアルオープンしました。

このように、佐世保市政は少しずつではありますが「進化」しています。これは市民や佐世保市議会をはじめとする多くの関係者の皆さまのご指導とご支援・ご協力のたまものと感謝しております。今後も市民の皆さまと一緒にコロナ禍を乗り越え、「新しい価値と新たな未来」を共に築いていきましょう。

佐世保市長 朝長 則男

徳育通信 110

聞いて「徳」する話 71 徳育って何？

私は、通学路での交通安全指導や防犯パトロールなどの見守り活動を20年間続けてきました。今から15年前、下校中の男の子から「徳育って何？」と聞かれました。その時は苦しいに「元気で学校に行って、学ぶことだよ」と答えました。今、徳育について聞かれたら、次の3つのことについて話をしたいと思っています。

- みんなにあいさつをして仲良くしよう
- 良いことや正しいことを実行しよう
- 学び活動できることに感謝しよう

私自身のことを振り返ってみれば、たくさん間違いや失敗が今に生かされていると感謝しています。子どもたちに伝えたいことは、「間違っても失敗しても自分で考え、夢

を実現するために努力し続ければ、徳が育ち、社会のために役立つ人に成長することができる」ということです。

さあ、今日も元気で楽しく、生き生きと過ごしましょう！

(岩元一英)

「聞いて徳する話」募集中

身の回りで見つけた「聞いて「徳」する話」を募集中です。応募用紙は事務局で配布しており、市ホームページからダウンロードすることもできます。

佐世保徳育推進会議 ☎ 23-2856